

## 序 言

恒木 健太郎

これまでアソシエーション（自発的な協働組織）による運動は、現存する社会の補完・修正ないしはそのオルタナティブの提示というかたちで続けられてきた。しかし、近年は政治部面を中心に対立軸を打ちだすことが困難な状況になりつつあり、そのなかでアソシエーションについても単なる対抗的運動の組織としてだけでは存立しづらくなってきている。また、そもそもアソシエーションによる対抗的運動はすべて失敗に帰してきたではないか、という懐疑的な見方さえある。これからアソシエーションは行き詰まりをみせる現存社会のなかでいかなる役割と意義をもちうるのだろうか。

この点について、今回は思想・歴史・実践のそれぞれの観点から討議する場を設けたいと考え、今年1月22日に本学神田キャンパスにて「アソシエーションの将来——希望と絶望の狭間で」と題するシンポジウムを開催した。本特集は、その時にご登壇いただいた御三方からの論考を収めたものである。なお、この時の内容については、下記リンク先より YouTube にて視聴可能である（第一部：<https://youtu.be/WWKPh7ZAiJk>、第二部：<https://youtu.be/I30xh8Lq4p0>）。本論考と併せてご覧いただき、今後のアソシエーションのありようについて考える一助となればそれに勝る幸いはない。